

イエスとの対話篇（文語訳）

——マタイ傳福音書より抜粋——

資料 2026年9月27日

3:13 いいにイエス、ヨハネにバプテスマを受けんとて、ガリラヤよりヨルダンに來り給ふ。

3:14 ヨハネ之を止めんとて言ふ

『われは汝にバプテスマを受くべき者なるに、反つて我に來り給ふか』

3:15 イエス答へて言ひたまふ

『今は許せ、われら斯く正しき事をことごとく爲遂ぐるは、當然なり』

ヨハネ乃ち許せり。

4:3 試むる者きたりて言ふ

『汝もし神の子ならば、命じて此等の石をパンと爲らしめよ』

4:4 答へて言ひ給ふ

『人の生くるはパンのみに由るにあらず、神の口より出づる凡ての言に由る』

と録されたり』

4:5 いいに惡魔イエスを聖なる都につれゆき、宮の頂上に立たせて言ふ、4:6

『汝もし神の子ならば己が身を下に投げよ。それは「なんぢの爲に御使たちに命じ

給はん。彼ら手にて汝を支へ、その足を石にうち當つること無からしめん』と録

されたるなり』

4:7 イエス言ひたまふ

『「主なる汝の神を試むべからず」と、また録されたり』

4:8 惡魔またイエスを最高き山につれゆき、世のもろもろの國と、その榮華とを示して言

ふ、4:9

『汝もし平伏して我を拜せば、此等を皆なんぢに與へん』

4:10 いいにイエス言ひ給ふ

『サタンよ、退け「主なる汝の神を拜し、ただ之にのみ事へ奉るべし」と録さ

れたるなり』

4:18 かくて、ガリラヤの海邊をあゆみて、二人の兄弟ペテロといふシモンとその兄弟ア

ンデレとが、海に網うちをるを見給ふ、かれらは漁人なり。4:19 これに言ひたまふ

『我に従ひきたれ、さらば汝らを人を漁る者となさん』

4:20 かれら直ちに網をすてて従ふ。7:22

『その日おほくの者われに對ひて「主よ、主よ、我らは汝の名によりて預言し、

汝の名によりて惡鬼を逐ひいだし、汝の名によりて多くの能力ある業を爲し



しにあらずや」と言はん。²³その時われ明白に告げん「われ斷えて汝らを知らず、不法をなす者よ、我を離れされ」と。』

8:1 イエス山を下り給ひしとき、大なる群衆これに従ふ。^{8:13}視よ、一人の癩病人みもとに來り、拜して言ふ

『主よ、御意ならば、我を潔くなし給ふを得ん』

8:3 イエス手をのべ、彼につけて

『わが意なり、潔くなれ』

と言ひ給へば、癩病ただちに潔れり。^{8:4}イエス言ひ給ふ

『つつしみて誰にも語るな、ただ往きて己を祭司に見せ、モーセが命じたる供物を獻げて、人々に證せよ』

8:5 イエス、カペナウムに入り給ひしとき、百卒長きたり、^{8:6}請ひていふ

『主よ、わが僕、中風を病み、家に臥しみて甚く苦しめり』

8:7 イエス言ひ給ふ

『われ往きて醫さん』

8:8 百卒長こたへて言ふ

『主よ、我は汝をわが屋根の下に入れまつるに足らぬ者なり。ただ御言のみを賜へ、さらば我が僕はいえん。^{8:9}我みづから權威の下にある者なるに、我が下にまた兵卒ありて、此に「ゆけ」と言へば往き、彼に「きたれ」と言へば來り、わが僕に「これを爲せ」といへば爲すなり』

8:10 イエス聞きて怪しみ、從へる人々に言ひ給ふ

『まことに汝らに告ぐ、かかる篤き信仰はイスラエルの中の一人にだに見しことなし。¹¹又なんぢらに告ぐ、多くの人、東より西より來り、アブラハム、イサク、ヤコブとともに天國の宴につき、¹²御國の子らは外の暗きに逐ひ出され、そこにて哀哭・切齒することあらん』

8:13 イエス百卒長に

『ゆけ、汝の信ずることく汝になれ』

と言ひ給へば、このとき僕いえたり。

8:19 一人の學者きたりて言ふ

『師よ、何處にゆき給ふとも、我は從はん』。

8:20 イエス言ひたまふ

『狐は穴あり、空の鳥は巢あり、されど人の子は枕する所なし』

8:21 また弟子の一人いふ

『主よ、先づ、往きて、我が父を葬ることを許したまへ』

8:22 イエス言ひたまふ



『我に従へ、死にたる者にその死にたる者を葬らせよ』

8:23 かくて舟に乗り給へば、弟子たちも従ふ。 8:24 視よ、海に大なる暴風おこりて、舟波に蔽はるるばかりなるに、イエスは眠り給ふ。 8:25 弟子たち御許にゆき、起して言ふ

『主よ、救ひたまへ、我らは亡ぶ』

8:26 彼らに言ひ給ふ

『なにゆゑ臆するか、信仰うすき者よ』

乃ち起きて、風と海とを禁め給へば、大なる風となりぬ。 8:27 人々あやしみて言ふ

『いは如何なる人ぞ、風も海も従ふとは』

8:28 イエス彼方にわたり、ガダラ人の地にゆき給ひしとき、悪鬼に憑かれたる二人のもの、墓より出できたりて之に遇ふ。 8:29 視よ、かれら叫びて言ふ

『神の子よ、われら汝と何の關係あらん、未だ時いたらぬに、我らを責めんとて此處にきたり給ふか』

8:30 遙にへだたりて多くの豚の一群、食しゐたりしが、8:31 悪鬼ども請ひて言ふ

『もし我らを逐ひ出さんとならば、豚の群に遣したまへ』

8:32 彼らに言ひ給ふ

『ゆけ』

悪鬼いでて豚に入りたれば、視よ、その群みな崖より海に駆け下りて、水に死にたり。

9:2 視よ、中風にて床に臥しをる者を、人々みもとに連れ來れり。イエス彼らの信仰を見て、中風の者に言ひたまふ

『子よ、心安かれ、汝の罪ゆるされたり』

9:3 視よ、或學者ら心の中にいふ

『この人は神を瀆すなり』

9:4 イエスその思を知りて言ひ給ふ

『何ゆゑ心に惡しき事をおもふか。⁵ 汝の罪ゆるされたりと言ふと、起きて歩めと言ふと、孰か易き。⁶ 人の子地にて罪を赦す權威あることを汝らに知らせん爲に』

——いかに中風の者に言ひ給ふ——

『起きよ、床をとりて汝の家にかへれ』

9:7 彼おきてその家にかへる。 9:8 群衆これを見ておそれ、かかる能力を人にあたへ給へる神を崇めたり。

9:9 イエス此處より進みて、マタイといふ人の收税所に坐しをるを見て

『我に従へ』

と言ひ給へば、立ちて従へり。

9:10 家にて食事の席につき居給ふとき、視よ、多くの取税人・罪人ら來りて、イエス及



び弟子たちと共に列る。 9:11 パリサイ人これを見て弟子たちに言ふ

『なに故なんぢらの師は、取税人・罪人らと共に食するか』

9:12 之を聞きて、言ひたまふ

『健かなる者は醫者を要せず、ただ、病める者これを要す。¹³ なんぢら往きて學べ「われ憐憫を好みて、犠牲を好まず」とは如何なる意ぞ。我は正しき者を招かんとあらで、罪人を招かんとて來れり』

9:14 かくにヨハネの弟子たち御許にきたりて言ふ

『われらとパリサイ人は斷食するに、何故なんぢの弟子たちは斷食せぬか』

9:15 イエス言ひたまふ

『新郎の友だち、新郎と偕にをる間は、悲しむことを得んや。されど新郎をとらるる日きたらん、その時には斷食せん。¹⁶ 誰も新しき布の裂を舊き衣につぐことは爲じ、補ひたる裂は、その衣をやぶりて、破綻さらに甚だしかるべし。

¹⁷ また新しき葡萄酒をふるき革囊に入ることは爲じ。もし然せば、囊はりさけ酒ほどばしり出でて、囊もまた廢らん。新しき葡萄酒は新しき革囊にいれ、かくて兩ながら保つなり』

9:18 イエス此等のことを語りぬ給ふとき、視よ、一人の司きたり、拜して言ふ

『わが娘いま死にたり。されど來りて御手を之におき給はば活きん』

9:19 イエス起ちて彼に伴ひ給ふに、弟子たちも従ふ。 9:20 視よ、十二年血漏を患ひゐた

る女、イエスの後にきたりて、御衣の總にさはる。 9:21 それは、御衣にだに觸らば救はれんと心の中にいへるなり。 9:22 イエスふりかへり、女を見て言ひたまふ

『娘よ、心安かれ、汝の信仰なんぢを救へり』

女この時より救はれたり。 9:23 かくてイエス司の家にいたり、笛ふく者と騒ぐ群衆とを見つて言ひたまふ、 9:24

『退け、少女は死にたるにあらず、寐ねたるなり』

人々イエスを嘲笑ふ。 9:25 群衆の出されし後、いりてその手をとり給へば、少女おきたり。

9:27 イエス此處より進みたまふ時、ふたりの盲人さけびて

『ダビデの子よ、我らを憫みたまへ』

と言ひつつ従ふ。 9:28 イエス家にいたり給ひしに、盲人ども御許に來りたれば、之に言ひたまふ

『我この事をなし得と信ずるか』

彼等いふ

『主よ、然り』

9:29 爰にイエスかれらの目に觸りて言ひたまふ

『なんぢらの信仰のごとく汝らに成れ』



9:30 乃ち彼らの目あきたり。イエス厳しく戒めて言ひたまふ

『慎みて誰にも知らすな』

9:31 されど彼ら出でて、あまねくその地にイエスの事をいひ弘めたり。

9:35 イエスあまねく町と村とを巡り、その會堂にて教へ、御國の福音を宣べつたへ、もろもろの病、もろもろの疾患をいやし給ふ。9:36 また群衆を見て、その牧ふ者なき羊のごとく悩み、且たふるるを甚く憫み、9:37 遂に弟子たちに言ひたまふ

『收穫はおほく労働人はすくなし。38この故に收穫の主に、労働人をその收穫場に遣し給はんことを求めよ』

10:5 イエスこの十二人を遣さんとて、命じて言ひたまふ。

『異邦人の途にゆくな、又サマリヤ人の町に入るな。6むしろイスラエル家の失せたる羊にゆけ。7往きて宣べつたへ「天國は近づけり」と言へ。8病める者をいやし、死にたる者を甦へらせ、癩病人をきよめ、惡鬼を逐ひいだせ。價なしに受けたれば價なしに與へよ。9帶のなかに金・銀または錢をもつな。

10旅の囊も、二枚の下衣も、鞋も、杖ももつな。労働人の、その食物を得るは相應しきなり。11いづれの町いづれの村に入るとも、その中にて相應しき者を尋ねいだして、立ち去るまでは其處に留れ。12人の家に入らば平安を祈れ。

13その家もし之に相應しくば、汝らの祈る平安はその上に臨まん。もし相應しからずば、その平安はなんぢらに歸らん。14人もし汝らを受けず、汝らの言を聽かずば、その家その町を立ち去るとき、足の塵をはらへ。15まことに

汝らに告ぐ、審判の日には、その町よりもソドム、ゴモラの地のかた耐へ易からん。』

11:2 ヨハネ牢舎にてキリストの御業をきき、弟子たちを遣して、11:3 イエスに言はしむ

『来るべき者は汝なるか、或は、他に待つべきか』

11:4 答へて言ひたまふ

『ゆきて、汝らが見聞する所をヨハネに告げよ。5盲人は見、跛者はあゆみ、癩病人は潔められ、聾者はきき、死人は甦へらせられ、貧しき者は福音を聞かせらる。6おほよそ我に蹟かぬ者は幸福なり』

12:1 その頃イエス安息日に麥畠をとほり給ひしに、弟子たち飢ゑて穂を摘み、食ひ始めたを、12:2 パリサイ人見てイエスに言ふ

『視よ、なんぢの弟子は安息日に爲まじき事をなす』

12:3 彼らに言ひ給ふ

『ダビデがその伴へる人々とともに飢ゑしとき、爲しし事を讀まぬか。4即ち神の家に入りて、祭司のほかは、己もその伴へる人々も食ふまじき供のパンを食へり。5また安息日に祭司らは宮の内にて安息日を犯せども、罪なきこ



とを律法にて讀まぬか。⁶ われ汝らに告ぐ、宮より大なる者ここに在り。⁷ われ憐憫を好みて犠牲を好まず」とは、如何なる意かを汝ら知りたらんには、罪なき者を罪せざりしならん。⁸ それ人の子は安息日の主たるなり』

12:9 イエス此處を去りて、彼らの會堂に入り給ひしに、12:10 視よ、片手なえたる人あり。人々イエスを訴へんと思ひ、問ひていふ

『安息日に人を醫することは善きか』

12:11 彼らに、言ひたまふ

『汝等のうち一匹の羊をもてる者あらんに、もし安息日に穴に陥らば、之を取りあげぬか。¹² 人は羊より優るること如何ばかりぞ。さらば安息日に善をなすは可し』

12:13 ここにかの人に言ひ給ふ

『なんぢの手を伸べよ』

かれ伸べたれば、他の手のごとく癒ゆ。

12:22 ここに惡鬼に憑かれたる盲目の唾者を御許に連れ來りたれば、之を醫して、唾者の物言ひ見ゆるやうに爲し給ひぬ。12:23 群衆みな驚きて言ふ

『いはダビデの子にあらぬか』

12:24 然るにパリサイ人ききて言ふ

『この人、惡鬼の首ベルゼブルによらでは、惡鬼を逐ひ出すことなし』

12:25 イエス彼らの思を知りて言ひ給ふ

『すべて分れ争ふ國はほろび、分れ争ふ町また家はたたず。²⁶ サタンもしサタンを逐ひ出さば、自ら分れ争ふなり。さらばその國いかで立つべき。²⁷ 我もしベルゼブルによりて惡鬼を逐ひ出さば、汝らの子は誰によりて之を逐ひ出すか。この故に彼らは汝らの審判人となるべし。²⁸ されど我もし神の靈によりて惡鬼を逐ひ出さば、神の國は既に汝らに到れるなり。²⁹ 人まづ強き者を縛らずば、いかで強き者の家に入りて、その家財を奪ふことを得ん、縛りて後その家を奪ふべし。³⁰ 我と偕ならぬ者は我にそむき、我とともに集めぬ者は散すなり。³¹ この故に汝らに告ぐ、人の凡ての罪と瀆とは赦されん、されど御靈を瀆すことは赦されじ。³² 誰にても言をもて人の子に逆ふ者は赦されん、されど言をもて聖靈に逆ふ者は、この世にても後の世にても赦されじ。³³ 或は樹をも善しとし、果をも善しとせよ。或は樹をも惡しとし、果をも惡しとせよ。樹は果によりて知らるるなり。³⁴ 蝮の裔よ、なんぢら惡しき者なるに、争で善きことを言ひ得んや。それ心に滿つるより口に言はるるなり。³⁵ 善き人は善き倉より善き物をいだし、惡しき人は惡しき倉より惡しき物をいだす。³⁶ われ汝らに告ぐ、人の語る凡ての虚しき言は、審判の日に糺さる



べし。³⁷それは汝の言によりて義とせられ、汝の言によりて罪せらるるなり』

12:38 こゝに或學者・パリサイ人ら答へて言ふ

『師よ、われら汝の徴を見んことを願ふ』

12:39 答へて言ひたまふ

『邪曲にして不義なる代は徴を求む、されど預言者ヨナの徴のほかに徴は與へられじ。⁴⁰即ち「ヨナが三日三夜、大魚の腹の中に在りし」ごとく、人の子も三日三夜、地の中に在るべきなり。⁴¹二ネベの人、審判のとき今の代の人とともに立ちて之が罪を定めん、彼らはヨナの宣ぶる言によりて悔改めたり。視よ、ヨナよりも勝るもの此處に在り。⁴²南の女王、審判のとき今の代の人とともに起きて之が罪を定めん、彼はソロモンの智慧を聴かんとして地の極より來れり。視よ、ソロモンよりも勝る者ここに在り。⁴³穢れし靈、人を出づるときは、水なき處を巡りて休を求む、而して得ず。⁴⁴乃ち「わが出でし家に歸らん」といひ、歸りて、その家の空きて掃き淨められ、飾られたるを見⁴⁵遂に往きて己より惡しき他の七つの靈を連れきたり、共に入りて此處に住む。されば其の人の後の状は前よりも惡しくなるなり。邪曲なる此の代もまた斯くの如くならん』

12:46 イエスなほ群衆にかたり居給ふとき、視よ、その母と兄弟たちと、彼に物言はんとて外に立つ。12:47 或人イエスに言ふ

『視よ、なんぢの母と兄弟たちと、汝に物言はんとて外に立てり』

12:48 イエス告げし者に答へて言ひたまふ

『わが母とは誰ぞ、わが兄弟とは誰ぞ』

12:49 かくて手をのべ、弟子たちを指して言ひたまふ

『視よ、これは我が母、わが兄弟なり。⁵⁰誰にても天にいます我が父の御意を

おこなふ者は、即ち我が兄弟、わが姉妹、わが母なり』

13:10 弟子たち御許に來りて言ふ

『なにゆゑ譬にて彼らに語り給ふか』

13:11 答へて言ひ給ふ

『なんぢらは天國の奧義を知ることを許されたれど、彼らは許されず。¹²それ誰にても、有てる人は與へられて愈々豊ならん。されど有たぬ人は、その有てる物をも取るべし。¹³この故に彼らには譬にて語る、これ彼らは見ゆれども見ず、聞ゆれども聴かず、また悟らぬ故なり、¹⁴かくてイザヤの預言は、彼らの上に成就す。曰く、「なんぢら聞きて聞けども悟らず、見て見れども認めず。¹⁵この民の心は鈍く、耳は聞くに懶く、目は閉ぢたればなり。これ目にて見、耳にて聴き、心にて悟り、翻へりて、我に醫さるる事なからん爲なり』



13:54 己が郷にいたり、會堂にて教へ給へば、人々おどろきて言ふ

『この人はこの智慧と此等の能力とを何處より得しぞ。 13:55 これ木匠の子にあらずや、其の母はマリヤ、其の兄弟はヤコブ、ヨセフ、シモン、ユダにあらずや。』

13:56 又その姉妹も皆われらと共にをるに非ずや。然るに此等のすべての事は何處より得しぞ』

13:57 遂に人々かれに蹟けり。イエス彼らに言ひたまふ

『預言者は、おのが郷おのが家の外にて尊ばれざる事なし』

13:58 彼らの不信仰によりて其處にては多くの能力ある業を爲し給はざりき。

14:14 イエス出でて大なる群衆を見、これを憫みて、その病める者を醫し給へり。 14:15 夕になりたれば、弟子たち御許に來りて言ふ

『ここは寂しき處、はや時も晩し、群衆を去らしめ、村々に往きて、己が爲に食物を買はせ給へ』

14:16 イエス言ひ給ふ

『かれら往くに及ばず、汝ら之に食物を與へよ』

14:17 弟子たち言ふ

『われらが此處にもてるは、唯五つのパンと二つの魚とのみ』

14:18 イエス言ひ給ふ

『それを我に持ちきたれ』

14:19 かくて群衆に命じて草の上に坐せしめ、五つのパンと二つの魚とを取り、天を仰ぎて祝し、パンを裂きて、弟子たちに與へ給へば、弟子たち之を群衆に與ふ。 14:20 凡ての人食ひて飽く、裂きたる餘を集めしに十二の筐に満ちたり。 14:21 食ひし者は、女と子供とを除きて凡そ五千人なりき。

14:25 夜明の四時ごろ、イエス海の上を歩みて、彼らに到り給ひしに、 14:26 弟子たち其の海の上を歩み給ふを見て心騒ぎ、變化の者なりと言ひて懼れ叫ぶ。 14:27 イエス直ちに彼らに語りて言ひたまふ

『心安かれ、我なり、懼るな』

14:28 ペテロ答へて言ふ

『主よ、もし汝ならば我に命じ、水を蹈みて御許に到らしめ給へ』

14:29

『來れ』

と言ひ給へば、ペテロ舟より下り、水の上を歩みてイエスの許に往く。 14:30 然るに風を見て懼れ、沈みかかりければ、叫びて言ふ

『主よ、我を救ひたまへ』

14:31 イエス直ちに御手を伸べ、これを捉へて言ひ給ふ



『ああ信仰うすき者よ、何ぞ疑ふか』

14:32 相共に舟に乗りしとき、風やみたり。 14:33 舟に居る者どもイエスを拜して言ふ
『まことに汝は神の子なり』

15:1 まことにパリサイ人・學者ら、エルサレムより來りてイエスに言ふ、 15:2

『なにゆゑ汝の弟子は、古への人の言傳を犯すか、食事のときに手を洗はぬなり』
15:3 答へて言ひ給ふ

『なにゆゑ汝らは、また汝らの言傳によりて神の誡命を犯すか。 4 即ち神は「父母を敬へ」と言ひ「父または母を罵る者は必ず殺さるべし」と言ひたまへり。

5 然るに汝らは「誰にても父または母に對ひて、我が負ふ所のものは供物となりたりと言はば、 6 父または母を敬ふに及ばず」と言ふ。斯くその言傳によりて神の言を空しうす。 7 偽善者よ、宜なる哉、イザやは汝らに就きて能く預言せり。曰く、 8 「この民は口唇にて我を敬ふ、されど其の心は我に遠ざかる。 9 ただ徒らに我を拜む。人の訓誡を教とし教へて」』

15:10 かくて群衆を呼び寄せて言ひたまふ

『聽きて悟れ。 11 口に入るものは人を汚さず、されど口より出づるものは、これ人を汚すなり』

15:12 まことに弟子たち御許に來りていふ

『御言をききてパリサイ人の躓きたるを知り給ふか』

15:13 答へて言ひ給ふ

『わが天の父の植ゑ給はぬものは、みな抜かれん。 14 彼らを捨ておけ、盲人を手引する盲人なり、盲人もし盲人を手引せば、二人とも穴に落ちん』

15:15 へテロ答へて言ふ

『その譬を我らに解き給へ』

15:16 イエス言ひ給ふ

『なんぢらも今なほ悟りなきか。 17 凡て口に入るものは腹にゆき、遂に厠に棄てらるる事を悟らぬか。 18 されど口より出づるものは心より出づ、これ人を汚すものなり。 19 それ心より惡しき念いづ、すなはち殺人・姦淫・淫行・竊盜・僞證・誹謗、 20 これらは人を汚すものなり、されど洗はぬ手にて食する事は人を汚さず』

15:22 視よ、カナンの女その邊より出てきたり、叫びて

『主よ、ダビデの子よ、我を憫み給へ、わが娘、惡鬼につかれて甚く苦しむ』

と云ふ。 15:23 されどイエス一言も答へ給はず。弟子たち來り請ひて言ふ

『女を歸したまへ、我らの後より叫ぶなり』

15:24 答へて言ひたまふ



『我はイスラエルの家の失せたる羊のほか遣されず』

15:25 女きたり拜して言ふ

『主よ、我を助けたまへ』

15:26 答へて言ひたまふ

『子供のパンをとりて小狗に投げ與ふるは善からず』

15:27 女こふ

『然り、主よ、小狗も主人の食卓よりおつる食屑を食ふなり』

15:28 いいにイエス答へて言ひたまふ

『をんなよ、汝の信仰は大なるかな、願のごとく汝になれ』

娘この時より癒えたり。

15:32 イエス弟子たちを召して言ひ給ふ

『われ此の群衆をあはれむ、既に三日われと偕にをりて食ふべき物なし。飢ゑたるままにて歸らしむるを好まず、恐らくは途にて疲れ果てん』

15:33 弟子たち言ふ

『この寂しき地にて、斯く大なる群衆を飽かしむべき多くのパンを、何處より得べや』

15:34 イエス言ひ給ふ

『パン幾つあるか』

彼らこふ

『七つ、また小き魚すこしあり』

15:35 イエス群衆に命じて地に坐せしめ、15:36 七つのパンと魚とを取り、謝して之をさき弟子たちに與へ給へば、弟子たちこれを群衆に與ふ。15:37 凡ての人くらひて飽き、裂きたる餘を拾ひしに、七つの籃に滿ちたり。15:38 食ひし者は、女と子供とを除きて四千人なりき。

16:1 パリサイ人とサドカイ人と來りてイエスを試み、天よりの徴を示さんことを請ふ。

16:2 答へて言ひたまふ

『夕には汝ら「空あかき故に晴ならん」と言ひ、³また朝には「そら赤くして曇る故に、今日は風雨ならん」と言ふ。なんぢら空の氣色を見分くることを知りて、時の徴を見分くること能はぬか。⁴邪曲にして不義なる代は徴を求む、されどヨナの徴の外に徴は與へられじ』

かくて彼らを離れて去り給ひぬ。

16:5 弟子たち彼方の岸に到りしに、パンを携ふることを忘れたり。16:6 イエス言ひたまふ

『慎みてパリサイ人とサドカイ人とのパン種に心せよ』



16:7 弟子たち互に

『我らはパンを携へざりき』

と語り合ふ。 16:8 イエス之を知りて言ひ給ふ

『ああ信仰うすき者よ、何ぞパン無きことを語り合ふか。 ⁹ 未だ悟らぬか、五つのパンを五千人に分ちて、その餘を幾籃ひろひ、 ¹⁰ また七つのパンを四千人に分ちて、その餘を幾籃ひろひしかを覚えぬか。 ¹¹ 我が言ひしはパンの事にあらぬを何ぞ悟らざる。 唯パリサイ人とサドカイ人とのパンだねに心せよ』

16:12 ここに弟子たちイエスの心せよと言ひ給ひしは、パンの種にはあらで、パリサイ人とサドカイ人との教なることを悟れり。

16:13 イエス、ピリポ・カイザリヤの地方にいたり、弟子たちに問ひて言ひたまふ

『人々は人の子を誰と言ふか』

16:14 彼等いふ

『或人はバプテスマのヨハネ、或人はエリヤ、或人はエレミヤ、また預言者の一人』

16:15 彼らに言ひたまふ

『なんぢらは我を誰と言ふか』

16:16 シモン・ペテロ答へて言ふ

『なんぢはキリスト、活ける神の子なり』

16:17 イエス答へて言ひ給ふ

『バルヨナ・シモン、汝は幸福なり、汝に之を示したるは血肉にあらず、天にいます我が父なり。 ¹⁸ 我はまた汝に告ぐ、汝はペテロなり、我この磐の上に我が教會を建てん、黄泉の門はこれに勝たざるべし。 ¹⁹ われ天國の鍵を汝に與へん、凡そ汝が地にて縛ぐ所は天にても縛ぎ、地にて解く所は天にても解くなり』

16:20 ここにイエス、己がキリストなる事を誰にも告ぐなと、弟子たちを戒め給へり。

16:21 この時よりイエス・キリスト、弟子たちに、己のエルサレムに往きて、長老・祭司長・學者らより多くの苦難を受け、かつ殺され、三日めに甦へるべき事を示し始めたまふ。

16:22 ペテロ、イエスを傍にひき戒め出でて言ふ

『主よ、然あらざれ、此の事なんぢに起らざるべし』

16:23 イエス振反りてペテロに言ひ給ふ

『サタンよ、我が後に退け、汝はわが躓物なり、汝は神のことを思はず、反つて人のことを思ふ』

16:24 ここにイエス弟子たちに言ひたまふ

『人もし我に従ひ來らんと思はば、己をすて、己が十字架を負ひて、我に従へ。』

²⁵ 己が生命を救はんと思ふ者は、これを失ひ、我がために己が生命をうしな



ふ者は、之を得べし。²⁶人、全世界を贏くとも、己が生命を損せば、何の益あらん、又その生命の代に何を與へんや。²⁷人の子は父の榮光をもて、御使たちと共に來らん。その時おのおのの行爲に隨ひて報ゆべし。²⁸まことに汝らに告ぐ、ここに立つ者のうちに、人の子のその國をもて來るを見るまでは、死を味はぬ者どもあり』

17:1 六日の後、イエス、ペテロ、ヤコブ及びヤコブの兄弟ヨハネを率きつれ、人を避けて高き山に登りたまふ。17:2 かくて彼らの前にてその状かはり、其の顔は日のごとく輝き、その衣は光のごとく白くなりぬ。17:3 視よ、モーセとエリヤとイエスに語りつつ彼らに現る。17:4 ペテロ差出でてイエスに言ふ

『主よ、我らの此處に居るは善し。御意ならば我ここに三つの廬を造り、一つを汝のため、一つをモーセのため、一つをエリヤの爲にせん』

17:5 彼なほ語りをるとき、視よ、光れる雲かれらを覆ふ。また雲より聲あり、曰く

『これは我が愛しむ子、わが悦ぶ者なり、汝ら之に聽け』

17:6 弟子たち之を聞きて倒れ伏し、懼ること甚だし。17:7 イエスその許にきたり之に觸りて

『起きよ、懼るな』

と言ひ給へば、17:8 彼ら目を舉げしに、イエス一人の他は誰も見えざりき。

17:9 山を下るとき、イエス彼らに命じて言ひたまふ

『人の子の死人の中より甦へるまでは、見たることを誰にも語るな』

17:10 弟子たち問ひて言ふ

『やうばエリヤ先づ來るべしと學者らの言ふは何ぞ』

17:11 答へて言ひたまふ

『實にエリヤ來りて萬の事をあらためん。¹²我なんぢらに告ぐ、エリヤは既に來れり。されど人々これを知らず、反つて心のままに待へり。かくのごとく人の子もまた人々より苦しめらるべし』

17:13 ここに弟子たちバプテスマのヨハネを指して言ひ給ひしなるを悟れり。

17:14 かれら群衆の許に到りしとき、或人御許にきたり跪づきて言ふ、17:15

『主よ、わが子を憫たまへ。癲癩にて難み、しばしば火の中に、しばしば水の中に倒るるなり。17:16 之を御弟子たちに連れ來りしに、醫すこと能はざりき』

17:17 イエス答へて言ひ給ふ

『ああ信なき曲れる代なるかな、我いつまで汝らと偕にをらん、何時まで汝らを忍ばん。その子を我に連れきたれ』¹⁸遂にイエスこれを禁め給へば、惡鬼いでてその子この時より癒えたり。¹⁹ここに弟子たち竊にイエスに來りて言ふ『われらは何故に逐ひ出し得ざりしか』²⁰彼らに言ひ給ふ『なんぢら信仰うす



き故なり。まことに汝らに告ぐ、もし芥種一粒ほどの信仰あらば、この山に「此處より彼處に移れ」と言ふとも移らん、かくて汝ら能はぬこと無かるべし』

17:22 彼らガリラヤに集ひをる時、イエス言ひたまふ

『人の子は人の手に付され、²³人々は之を殺さん、かくて三日めに甦へるべし』
弟子たち甚く悲しめり。

17:24 彼らカペナウムに到りしとき、納金を集むる者どもペテロに來りて言ふ

『なんぢらの師は納金を納めぬか』

17:25 ペテロ

『納む』

と言ひ、やがて家に入りしに、逸速くイエス言ひ給ふ

『シモンいかに思ふか、世の王たちは税または貢を誰より取るか、己が子よりか、他の者よりか』

17:26 ペテロ言ふ

『ほかの者より』

イエス言ひ給ふ

『されば子は自由なり。²⁷されど彼らを躓かせぬ爲に、海に往きて釣をたれ、初に上る魚をとれ、其の口をひらかば銀貨一つを得ん、それを取りて我と汝との爲に納めよ』

18:1 そのとき弟子たちイエスに來りて言ふ

『しからば天國にて大なるは誰か』

18:2 イエス幼児を呼び、彼らの中に置きて言ひ給ふ 18:3

『まことに汝らに告ぐ、もし汝ら翻へりて幼児の如くならずば、天國に入るを得じ。⁴されば誰にても此の幼児のごとく己を卑うする者は、これ天國にて大なる者なり。⁵また我が名のために、かくのごとき一人の幼児を受くる者は、我を受くるなり。⁶されど我を信する此の小き者の一人を躓かする者は、寧ろ大なる礪石を頸に懸けられ、海の深處に沈められんかた益なり。⁷この世は躓物あるによりて禍害なるかな。躓物は必ず來らん、されど躓物を來らする人は禍害なるかな。⁸もし汝の手または足なんぢを躓かせば、切りて棄てよ。不具または蹇跛にて生命に入るは、兩手兩足ありて永遠の火に投げ入れらるるよりも勝るなり。⁹もし汝の眼なんぢを躓かせば、抜きて棄てよ。片眼にて生命に入るは、兩眼ありて火のゲヘナに投げ入れらるるよりも勝るなり。¹⁰汝ら慎みて此の小き者の一人をも侮るな。我なんぢらに告ぐ、彼らの御使たちは天にありて、天にいます我が父の御顔を常に見るなり。¹²汝等いかに思ふか、百匹の羊を有てる人あらんに、若しその一匹まよはば、九十九匹を



山に遺しおき、往きて迷へるものを尋ねぬか。¹³もし之を見出さば、まことに汝らに告ぐ、迷はぬ九十九匹に勝りて此の一匹を喜ばん。¹⁴かくのごとく此の小さき者の一人の亡ぶるは、天にいます汝らの父の御意にあらず。』

18:21 ここにペテロ御許に來りて言ふ

『主よ、わが兄弟われに對して罪を犯さば幾たび赦すべきか、七度までか』

18:22 イエス言ひたまふ

『否、われ「七度まで」とは言はず「七度を七十倍するまで」

と言ふなり。』

19:3 パリサイ人ら來り、イエスを試みて言ふ

『何の故にかかはらず、人その妻を出すは可きか』

19:4 答へて言ひたまふ

『人を造り給ひしもの、元始より之を男と女とに造り、而して、⁵「かかる故に人は父母を離れ、その妻に合ひて、二人のもの一體となるべし」と言ひ給ひしを未だ讀まぬか。⁶されば、はや二人にはあらず、一體なり。この故に神の合せ給ひし者は、人これを離すべからず』

19:7 彼らイエスに言ふ

『やうば何故モーセは離縁状を與へて出すことを命じたるか』

19:8 彼らに言ひ給ふ

『モーセは汝の心つれなきによりて妻を出すことを許したり。されど元始より然にはあらぬなり。⁹われ汝らに告ぐ、おほよそ淫行の故ならで其の妻をいだし他に娶る者は、姦淫を行ふなり』

19:10 弟子たちイエスに言ふ

『人もし妻のことに於てかくのごとくば、娶らざるに如かず』

19:11 彼らに言ひたまふ

『凡ての人この言を受け容るるにはあらず、ただ授けられたる者のみなり。¹²それ生れながらの闇人あり、人に爲られたる闇人あり、また天國のために自らなりたる闇人あり、之を受け容れうる者は受け容るべし』

19:13 ここに人々イエスの手をおきて祈り給はんことを望みて、幼児らを連れ來りしに、弟子たち禁めたれば、19:14 イエス言ひたまふ

『幼児らを許せ、我に來るを止むな、天國はかくのごとき者の國なり』

19:15 かくて手を彼らの上におきて此處を去り給へり。

19:16 視よ、或人みもとに來りて言ふ

『師よ、われ永遠の生命をうる爲には、如何なる善き事を爲すべきか』

19:17 イエス言ひたまふ



『善き事につきて何ぞ我に問ふか、善き者は唯ひとりのみ。汝もし生命に入ら
んと思はば誠命を守れ』

19:18 彼ら

『孰を』

イエス言ひたまふ

『「殺すなかれ」「姦淫するなかれ」「盗むなかれ」「偽證を立つる勿れ」¹⁹「父
と母とを敬へ」また「己のごとく汝の隣を愛すべし」』

19:20 その若者いふ

『我みな之を守れり、なほ何を缺くか』

19:21 イエス言ひたまふ

『なんぢ若し全からんと思はば、往きて汝の所有を賣りて貧しき者に施せ、さ
らば財寶を天に得ん。かつ來りて我に従へ』

19:22 この言をききて、若者悲しみつつ去りぬ。大なる資産を有てる故なり。

19:23 イエス弟子たちに言ひ給ふ

『まことに汝らに告ぐ、富める者の天國に入るは難し。²⁴復なんぢらに告ぐ、
富める者の神の國に入るよりは、駱駝の針の孔を通るかた反つて易し』

19:25 弟子たち之をきき、甚だしく驚きて言ふ

『やうば誰か救はるることを得ん』

19:26 イエス彼らに目を注めて言ひ給ふ

『これは人に能はねど、神は凡ての事をなし得るなり』

19:27 こゝにペテロ答へて言ふ

『視よ、われら一切をすてて汝に従へり、されば何を得べきか』

19:28 イエス彼らに言ひ給ふ

『まことに汝らに告ぐ、世あらたまりて人の子その榮光の座位に坐するとき、
我に従へる汝等もまた十二の座位に坐して、イスラエルの十二の族を審かん。

²⁹また凡そ我が名のために、或は家、あるひは兄弟、あるひは姉妹、あるひ
は父、あるひは母、あるひは子、あるひは田畑を棄つる者は、數倍を受け、
また永遠の生命を嗣が³⁰ん。されど多くの先なる者後に、後なる者先になる

べし。』

20:20 こゝにゼベダイの子らの母、その子らと共に御許にきたり、拜して何事か求めんと
したるに、20:21 イエス彼に言ひたまふ

『何を望むか』

かれ言ふ

『この我が二人の子が汝の御國にて、一人は汝の右に、一人は左に坐せんことを命



じ給へ』

20:22 イエス答へて言ひ給ふ

『なんぢらは求むる所を知らず、我が飲まんとする酒杯を飲み得るか』

かれら言ふ

『得るなり』

20:23 イエス言ひたまふ

『實に汝らは我が酒杯を飲むべし、されど我が右左に坐することは、これ我の與ふべきものならず、我が父より備へられたる人こそ與へらるるなれ』

20:24 十人の弟子これを聞き、二人の兄弟の事によりて憤ほる。 20:25 イエス彼らを呼びて言ひたまふ

『異邦人の君のその民を宰どり、大なる者の民の上に權を執ることは、汝らの知る所なり。 26 汝らの中には然らず、汝らの中に大ならんと思ふ者は、汝らの役者となり、 27 首たらんと思ふ者は汝らの僕となるべし。 28 かくのごとく、人の子の來れるも事へらるる爲にあらず、反つて事ふることをなし、又おほくの人の贖償として己が生命を與へん爲なり』

20:29 彼らエリコを出づるとき、大なる群衆イエスに従へり。 20:30 視よ、二人の盲人、

路の傍らに坐しをりしが、イエスの過ぎ給ふことを聞き、叫びて言ふ

『主よ、ダビデの子よ、我らを憫みたまへ』

20:31 群衆かれらを禁めて黙さしめんとしたれど、愈々叫びて言ふ

『主よ、ダビデの子よ、我らを憫み給へ』

20:32 イエス立ちどまり、彼らを呼びて言ひ給ふ

『わが汝らに何を爲さんことを望むか』

20:33 彼ら言ふ

『主よ、目の開かれんことなり』

20:34 イエスいたく憫みて彼らの目に觸り給へば、直ちに物見ることを得て、イエスに従へり。

21:1 彼らエルサレムに近づき、オリブ山の邊なるベテパゲに到りし時、イエス二人の弟子を遣さんとして言ひ給ふ、 21:2

『向の村にゆけ、やがて繋ぎたる驢馬のその子とともに在るを見ん、解きて我に牽ききたれ。 3 誰かもし汝らに何とか言はば「主の用なり」と言へ、さらば直ちに之を遣さん』

21:12 イエス宮に入り、その内なる凡ての賣買する者を逐ひだし、兩替する者の臺、鴿を賣る者の腰掛を倒して言ひ給ふ、 21:13

『わが家は祈の家と稱へらるべし』と録されたるに、汝らは之を強盜の巢と



なす』

21:14 宮にて盲人・跛者ども御許に來りたれば、之を醫したまへり。 21:15 祭司長・學者らイエスの爲し給へる不思議なる業と、宮にて呼はり

『ダビデの子にホサナ』

と言ひをる子等とを見、憤ほりて、 21:16 イエスに言ふ

『なんぢ彼らの言ふところを聞くか』

イエス言ひ給ふ

『然り「嬰兒乳兒の口に讚美を備へ給へり」とあるを未だ讀まぬか』

21:18 朝早く都にかへる時、イエス飢ゑたまふ。 21:19 路の傍なる一もとの無花果の樹を見て、その下に到り給ひしに、葉のほかに何をも見出さず、之に對ひて

『今より後いつまでも果を結ばざれ』

と言ひ給へば、無花果の樹たちどころに枯れたり。 21:20 弟子たち之を見、怪しみて言ふ

『無花果の樹の斯く立刻に枯れたるは何ぞや』

21:21 イエス答へて言ひ給ふ

『まことに汝らに告ぐ、もし汝ら信仰ありて疑はずば、啻に此の無花果の樹にありし如きことを爲し得るのみならず、此の山に「移りて海に入れ」と言ふとも亦成るべし。 22 かつ祈るとき何にても信じて求めば、こゝごとく得べし』

21:23 宮に到りて教へ給ふとき、祭司長・民の長老ら御許に來りて言ふ

『何の權威をもて此等の事をなすか、誰がこの權威を授けしか』

21:24 イエス答へて言ひたまふ

『我も一言なんぢらに問はん、もし夫を告げなば、我もまた何の權威をもて此等のことを爲すかを告げん。 21:25 ヨハネのバプテスマは何處よりぞ、天よりか、人よりか』

かれら互に論じて言ふ

『もし天よりと言はば「何故かれを信ぜざりし」と言はん。 21:26 もし人よりと言はんか、人みなヨハネを預言者と認むれば、我らは群衆を恐る』

21:27 遂に答へて

『知らず』

と言へり。イエスもまた言ひたまふ

『我も何の權威をもて此等のことを爲すか汝らに告げじ。 28 なんぢら如何に思ふか、或人ふたりの子ありしが、その兄にゆきて言ふ「子よ、今日、葡萄園に往きて働け」 29 答へて「主よ、我ゆかん」と言ひて終に往かず。 30 また弟にゆきて同じやうに言ひしに、答へて「往かじ」と言ひたれど、後くいて往きたり。 31 この二人のうち孰か父の意を爲しし』



彼らいふ

『後の者なり』

イエス言ひ給ふ

『まことに汝らに告ぐ、取税人と遊女とは汝らに先だちて神の國に入るなり。』

³²それヨハネ義の道をもて来りしに、汝らは彼を信ぜず、取税人と遊女とは信じたり。然るに汝らは之を見し後も、なほ悔改めずして信ぜざりき。』

22:15 ここにパリサイ人ら出でて、如何にしてかイエスを言の繙に係けんと相議り、

『師よ、我らは知る、なんじは眞にして、眞をもて神の道を教へ、かつ誰をも憚りたまふ事なし、人の外貌を見給はぬ故なり。 22:17 されば我らに告げたまへ、貢をカイザルに納むるは可きか、惡しきか、如何に思ひたまふ』

22:18 イエスその邪曲なるを知りて言ひたまふ

『偽善者よ、なんぞ我を試むるか。 ¹⁹貢の金を我に見せよ』

彼らデナリ一つを持ち来る。 22:20 イエス言ひ給ふ

『これは誰の像、たれの號なるか』

22:21 彼ら言ふ

『カイザルのなり』

いいに彼らに言ひ給ふ

『さらばカイザルの物はカイザルに、神の物は神に納めよ』

22:22 彼ら之を聞きて怪しみ、イエスを離れて去り往けり。

22:23 復活なしといふサドカイ人ら、その日みもとに來り問ひて言ふ 22:24

『師よ、モーセは「人もし子なくして死なば、其の兄弟かれの妻を娶りて、兄弟のために世嗣を擧ぐべし」と云へり。 22:25 我らの中に七人の兄弟ありしが、兄めとりて死に、世嗣なくして其の妻を弟に遺したり。 22:26 その二その三より、その七まで皆かくの如く爲し、 22:27 最後にその女も死にたり。 22:28 されば復活の時、その女は七人のうち誰の妻たるべきか、彼ら皆これを妻としたればなり』

22:29 イエス答へて言ひ給ふ

『なんぢら聖書をも神の能力をも知らぬ故に誤れり。 ³⁰それ人よみがへりの時は、娶らず嫁がず、天に在る御使たちの如し。 ³¹死人の復活に就きては、神なんぢらに告げて、 ³²「我はアブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神なり」と言ひ給へることを未だ讀まぬか。神は死にたる者の神にあらず、生ける者の神なり』

22:33 群衆これを聞きて其の教に驚けり。

22:34 パリサイ人ら、イエスのサドカイ人らを黙さしめ給ひしことを聞きて相集り、



22:35 中なる一人の教法師、イエスを試むる爲に問ふ 22:36

『師よ、律法のうち孰の誠命が大なる』

22:37 イエス言ひ給ふ

『「なんぢ心を盡し、精神を盡し、思を盡して主なる汝の神を愛すべし」³⁸ これ
は大にして第一の誠命なり。³⁹ 第二もまた之にひとし「おのれの如くなんぢ
の隣を愛すべし」⁴⁰ 律法全體と預言者とは此の二つの誠命に據るなり』

22:41 パリサイ人らの集りたる時、イエス彼らに問ひて言ひ給ふ 22:42

『なんぢらはキリストに就きて如何に思ふか、誰の子なるか』

かれら言ふ

『ダビデの子なり』

22:43 イエス言ひ給ふ

『やらばダビデ御靈に感じて何故かれを主と稱ふるか。曰く⁴⁴「主わが主に言
ひ給ふ、われ汝の敵を汝の足の下に置くまでは、我が右に坐せよ」⁴⁵ 斯くダ
ビデ彼を主と稱ふれば、争でその子ならんや』

22:46 誰も一言だに答ふること能はず、その日より敢へて復イエスに問ふ者なかりき。

24:1 イエス宮を出でてゆき給ふとき、弟子たち宮の建造物を示さんとして御許に來りしに、

24:2 答へて言ひ給ふ

『なんぢら此の一切の物を見ぬか。誠に汝らに告ぐ、此處に一つの石も崩され
ずしては石の上に遺らじ』

24:3 オリブ山に坐し給ひしとき、弟子たち竊に御許に來りて言ふ

『われらに告げ給へ、これらの事は何時あるか、又なんぢの來り給ふと世の終とに
は、何の兆あるか』

24:4 イエス答へて言ひ給ふ

『なんぢら人に惑されぬやうに心せよ。⁵ 多くの者わが名を冒し來り「我はキ
リストなり」と言ひて多くの人を惑さん。⁶ 又なんぢら戦争と戦争の噂とを
聞かん、慎みて懼るな。かかる事はあるべきなり、されど未だ終にはあらず。
⁷ 即ち「民は民に、國は國に逆ひて起たん」また處々に饑饉と地震とあらん、
⁸ 此等はみな産の苦難の始なり。⁹ そのとき人々なんぢらを患難に付し、また
殺さん、汝等わが名の爲に、もろもろの國人に憎まれん。¹⁰ その時おほくの
人つまづき、且たがひに付し、互に憎まん。¹¹ 多くの偽預言者おこりて、多
くの人を惑さん。¹² また不法の増すによりて、多くの人の愛ひややかにならん。
¹³ されど終まで耐へしのぶ者は救はるべし。¹⁴ 御國のこの福音は、もろもろの
國人に證をなさんため全世界に宣傳へられん、而してのち終は至るべし。』

26:7 ある女、石膏の壺に入りたる貴き香油を持ちて、近づき來り、食事の席に就き居給



ふイエスの首に注げり。 26:8 弟子たち之を見て憤ほり言ふ

『何故かく濫なる費をなすか。 26:9 之を多くの金に賣りて、貧しき者に施すことを得たりしものを』

26:10 イエス之を知りて言ひたまふ

『何ぞこの女を惱すか、我に善き事をなせるなり。 ¹¹貧しき者は常に汝らと偕にをれど、我は常に偕に居らず。 ¹²この女の我が體に香油を注ぎしは、わが葬りの備をなせるなり。 ¹³まことに汝らに告ぐ、全世界いずこにても、この福音の宣傳へらるる處には、この女のなしし事も記念として語らるべし』

26:17 除酵祭の初の日、弟子たちイエスに來りて言ふ

『過越の食をなし給ふために、何處に我らが備ふる事を望み給ふか』

26:18 イエス言ひたまふ

『都にゆき、某のもとに到りて「師いふ、わが時近づけり。われ弟子たちと共に過越を汝の家にて守らん」と言へ』

26:19 弟子たちイエスの命じ給ひし如くして、過越の備をなせり。 26:20 日暮れて十二弟子とともに席に就きて、 26:21 食するとき言ひ給ふ

『まことに汝らに告ぐ、汝らの中の一人われを賣らん』

26:22 弟子たち甚く憂ひて、おのおの

『主よ、我なるか』

と言ひいでしに、 26:23 答へて言ひたまふ

『我とともに手を鉢に入るる者われを賣らん。 ²⁴人の子は己に就きて録されたる如く逝くなり。されど人の子を賣る者は禍害なるかな、その人は生れざりし方よりしものを』

26:25 イエスを賣るユダ答へて言ふ

『ラビ、我なるか』

イエス言ひ給ふ

『なんぢの言へる如し』

26:26 彼ら食しをる時、イエス、パンをとり、祝してさき、弟子たちに與へて言ひ給ふ

『取りて食へ、これは我が體なり』

26:27 また酒杯をとりて謝し、彼らに與へて言ひ給ふ

『なんぢら皆この酒杯より飲め。 ²⁸これは契約のわが血なり、多くの人のために、罪の赦を得させんとて流す所のものなり。 ²⁹われ汝らに告ぐ、わが父の國にて新しきものを汝らと共に飲む日まで、われ今より後この葡萄の果より成るものを飲まじ』

26:31 三つにイエス弟子たちに言ひ給ふ



『今宵なんぢら皆われに就きて躓かん「われ牧羊者を打たん、さらば群の羊散るべし」と録されたるなり。³²されど我よみがへりて後、なんぢらに先だちてガリラヤに往かん』

26:33 ペテロ答へて言ふ

『假令みな汝に就きて躓くとも我はいつまでも躓かじ』

26:34 イエス言ひ給ふ

『まことに汝に告ぐ、こよひ鶏鳴く前に、なんぢ三たび我を否むべし』

26:35 ペテロ言ふ

『我なんぢと共に死ぬべき事ありとも汝を否まず』

弟子たち皆かく言へり。

26:36 ここにイエス彼らと共にゲツセマネといふ處にいたりて、弟子たちに言ひ給ふ

『わが彼處にゆきて祈る間、なんぢら此處に坐せよ』

26:37 かくてペテロとゼベダイの子二人とを伴ひゆき、憂ひ悲しみ出でて言ひ給ふ、

26:38

『わが心いたく憂ひて死ぬばかりなり。汝ら此處に止りて我と共に目を覺しを
れ』

26:39 少し進みゆきて、平伏し祈りて言ひ給ふ

『わが父よ、もし得べくば此の酒杯を我より過ぎ去らせ給へ。されど我が意の儘にとにはあらず、御意のままに爲し給へ』

26:40 弟子たちの許にきたり、その眠れるを見てペテロに言ひ給ふ

『なんぢら斯く一時も我と共に目を覺し居ること能はぬか。⁴¹誘惑に陥らぬやう、目を覺しかつ祈れ。實に心は熱すれども肉體よわきなり』

26:42 また二度ゆき祈りて言ひ給ふ

『わが父よ、この酒杯もし我飲までは過ぎ去りがたくば、御意のままに成し給へ』

26:43 復きたりて彼らの眠れるを見たまふ、是その目疲れたるなり。 26:44 また離れゆきて、三たび同じ言にて祈り給ふ。 26:45 而して弟子たちの許に來りて言ひ給ふ

『今は眠りて休め。視よ、時近づけり、人の子は罪人らの手に付さるるなり。』

⁴⁶起きよ、我ら往くべし。視よ、我を賣るもの近づけり』

26:48 イエスを賣る者あらかじめ合圖を示して言ふ

『わが接吻する者はそれなり、之を捕へよ』

26:49 かくて直ちにイエスに近づき

『ラビ、安かれ』

といひて接吻したれば、26:50 イエス言ひたまふ

『友よ、何とて來る』



このとき人々すすみてイエスに手をかけて捕ふ。 26:51 視よ、イエスと偕にありし者のひとり、手をのべ剣を抜きて、大祭司の僕をうちて、その耳を切り落せり。 26:52 かいにイエス彼に言ひ給ふ

『なんぢの剣をもとに收めよ、すべて剣をとる者は剣にて亡ぶるなり。⁵³我わが父に請ひて、十二軍に餘る御使を今あたへらるること能はずと思ふか。⁵⁴もし然せば、斯くあるべく録したる聖書はいかで成就すべき』

26:55 この時イエス群衆に言ひ給ふ

『なんぢら強盜に向ふごとく剣と棒とをもち、我を捕へんとて出で来るか。我は日々宮に坐して教へたりしに、汝ら我を捕へざりき。⁵⁶されどかくの如くなるは、みな預言者たちの書の成就せん爲なり』

こゝに弟子たち皆イエスを棄てて逃げさりぬ。

26:63 されどイエス黙し居給ひたれば、大祭司いふ

『われ汝に命ず、活ける神に誓ひて我らに告げよ、汝はキリスト、神の子なるか』

26:64 イエス言ひ給ふ

『なんぢの言へる如し。かつ我なんぢらに告ぐ、今より後、なんぢら人の子の全能者の右に坐し、天の雲に乗りて来るを見ん』

26:65 こゝに大祭司おのが衣を裂きて言ふ

『かれ瀆言をいへり、何ぞ他に證人を求めん。視よ、なんぢら今この瀆言をきけり。

26:66 いかと思ふか』

答へし言ふ

『かれは死に當れり』

27:11 かくイエス、總督の前に立ち給ひしに、總督問ひて言ふ

『なんぢはユダヤ人の王なるか』

イエス言ひ給ふ

『なんぢの言ふが如し』

27:46 三時ころイエス大聲に叫びて

『エリ、エリ、レマ、サバクタニ』

と言ひ給ふ。わが神、わが神、なんぞ我を見棄て給ひしとの意なり。 27:50 イエス再び大聲に呼はりて息絶えたまふ。

28:1 かく安息日をはりて、一週の初の日のほの明き頃、マグダラのマリヤと他のマリヤと墓を見んとて來りしに、 28:9 視よ、イエス彼らに遇ひて

『安かれ』

と言ひ給ひたれば、進みゆき、御足を抱きて拜す。 28:10 かくイエス言ひたまふ

『懼るな、往きて我が兄弟たちに、ガリラヤにゆき、彼處にて我を見るべきい



とを知らせよ』

28:16 十一弟子たちガリラヤに往きて、イエスの命じ給ひし山にのぼり、28:17 遂に謁えて拜せり。されど疑ふ者もありき。28:18 イエス進みきたり、彼らに語りて言ひたまふ

『我は天にても地にても一切の權を與へられたり。¹⁹されば汝ら往きて、もろもろの國人を弟子となし、父と子と聖靈との名によりてバプテスマを施し、²⁰わが汝らに命ぜし凡ての事を守るべきを教へよ。視よ、我は世の終まで常に汝らと偕に在るなり』

